

昭和54年度

# 定期総会開かる

## 会長に松下逸雄氏再選



八月十九日(日)午後一時より、母校新館会議室にて五十四年度定期総会が開かれた。記念講演講師として中37回本島健次氏が迎えられた。

昨年の総会実行委員の方々が、今年も引続き会長より依頼され実行委員として活躍し、議事は、議長団に高坂宗一氏(中26)、本庄芳美氏(中37)、中島義司氏(中39)の三名が選任され、誠にスムーズに予定された議事が滞りなく承認可決された。会長より八十周年の記念事業についての検討は評議員会に任して貰いたいとの発言があり承認された。又長姫高校跡に記念碑を建ててはどうかとの意見も出ました。今年役員改選の年ですが、会長以下旧役員が全員再選された。矢高仰児氏(中44)のタクトで校歌が斉

# 飯田高校同窓会報

第18号

長野県飯田高等学校同窓会 会長 松吉 飯田  
 発行 飯田 編集 飯田 印刷 飯田  
 印刷 飯田 印刷 飯田

唱され、大先輩、大沢和夫氏(中22)の音頭で万才が三唱され終了した。その後

の懇親会も大変なごやかな雰囲気のうちに、お互いに昔を偲び話はずんだ。

私達役員は、去る八月十九日の総会に於て、再選されました。

来年は独立八十周年、創立九十八年、大いに祝福したいと思ひ評議員の中から役員を選任しました。記念行事は十月を予定しています。これに伴う経費は維持会費の同窓会報及び会員名簿充当以外を使用したいと思ひ求めています。従って寄附を求めません。

### 御挨拶

会長 松下逸雄

私も八十周年の中の五年間お世話になりましたが八十年もたつて長かった五ヶ年が短かく感じられます。

伊那の最高学府である中央道が開設した飯伊地方に大学のないことも人を都会に分散させてしまひ、やはり人を呼ぶ大学人材で地元をつくることに必要です。

昭和五十五年は、母校創立八十周年にあたり、愈々その記念すべき良き年を迎えようとしています。私達同窓生一同は、母校の将来のために、何か記念に残る事業をいたしたいと思ふ気持ちには皆同じことと存じます。

(役職)	(回)	(氏名)	(現住所)
委員長	中24	市村保人	飯田市山本
副委員長	中35	北原嘉雄	飯田市黒田
全理事	中39	加藤清敬	飯田市下市
監事	中26	森本信也	飯田市松尾
会計	中35	森本信也	飯田市松尾
委員	中26	宮沢千章	飯田市沼宮町
委員	中31	今村頼二	飯田市今宮町
委員	中33	奥村文男	飯田市丸山
委員	中36	北原文一	飯田市中村
委員	中39	原成幸	飯田市愛宕町
委員	中40	原成幸	飯田市平
委員	中46	曾我水	飯田市羽場
委員	高4	高安渡	飯田市吾妻町
委員	高7	高安渡	飯田市別府
委員	高8	高安渡	飯田市上郷

以上の5名を常任委員とする。  
以上15名

尚この記念事業は、学校側と、同窓会とが、一体となつて計画実施するものであります。

同窓会評議員会にて選任されました実行委員の互選により構成されました実行委員会の委員は、次の通りであります。

## 80周年記念事業 実行委員会発足する

昭和五十五年は、母校創立八十周年にあたり、愈々その記念すべき良き年を迎えようとしています。私達同窓生一同は、母校の将来のために、何か記念に残る事業をいたしたいと思ふ気持ちには皆同じことと存じます。

- △総会次第▽
- 一、開会の辞
  - 二、物故会員への黙禱
  - 三、実行委員長挨拶
  - 四、会長挨拶
  - 五、学校長挨拶
  - 六、議事(議長団登壇)
  - イ、会務報告
  - ロ、昭和五十三年度決算書について
  - ハ、役員改選
  - ニ、新役員挨拶
  - 三、昭和五十四年度予算書(案)について
  - ホ、その他

- △新役員▽
- 一、校歌斉唱
  - 二、万才三唱
  - 三、閉会の辞
  - 以上
  - 記念講演 「エネルギー問題と原力」 本島健次氏(中37回)
  - 懇親会
  - 監事 横田盛広(高3)
  - 外松淳(中39)
  - 市瀬泰久(高2)
  - 会計 伊坪三郎(中45)
  - 総会実行委員
  - 委員長 小島哲(高4)
  - 馬場田幸雄(高4)
  - 原田充朗(高7)
  - 熊谷正輝(高9)
  - 野原実(高10)
  - 北村俊一(高11)
  - 矢澤与平(高12)
  - 伊藤勝治(高13)
  - 篠田仁宏(高14)
  - 佐藤至利(高16)

ただいま、御紹介いただきまし本島でございます。高森町出身で本籍はこちらにございます。本日はこの様な記念講演にお招きいただき感謝申し上げます。昭和十九年に京都を出まし「大学院特別研究生」になり、終了後は立命館大学で十年程助教を致しました。その後原子力研究所に呼ばれ二十年間勤めました。現在は日立製作所の技師長を勤めております。略：さて本日のお話は「原子力とエネルギー問題」となっておりますが、あまり難しい話はするな、と言うことでしたので、二十年程原子力に関係して来たものから、その方の問題を少し、お話ししたいと思います。先日、スリーマイル島の原子力発電所の事件が新聞に大きく取り上げられました。略：が、いつも原子力発電で問題になるのは放射能あるいは放射線であり、放射能は放射線を放射する能力のこと、放射線は放射能をもった原子核から出て来たもので、放射能を取り除けばなくなってしまう。原子力発電では原子炉を動かすと放射能をもった物質が漏れたり、放射線が出てくるみたいで、そこに問題がきます。略：そこで原子力がどのように発展して来たか、お

話した方が理解されやすいと思しますので、簡単に歴史のお話ししようと思します。放射能の発見。放射線の発見は一八九五年にレントゲンのX線の発見にさかのぼります。この放電管から出る光に似ていて光の通さないものを通すと、このX線と同じものが自然界の物質の中にあるのではないかと考えた人達がいたのです。その中で、ベクレル博士は、写真の乾板の上に色々の物質を置き、写真に感光する物質をさがし、これがウランであることをつきとめました。その後、キュリー夫妻は、ピッチブレンドと云う、ウランを六〇%も含む黒色の鉱石がウランよりも数倍の強い光を出すことにいち早く気づき、ピッチブレンドからウランを取り除いたカスをオーストリア政府から譲りうけて研究を重ね、ついにポロニウムとラジウムと云う元素を発見したことは周知の通りです。略：さて問題は、この放射性元素の発見により今迄「元素は不変であるもの」と云う考えであったのが、そうではなく放射線を出しながら、他の元素に変わって行くと考えられるようになったことです。略：原子力がどのように発展して来たか、お

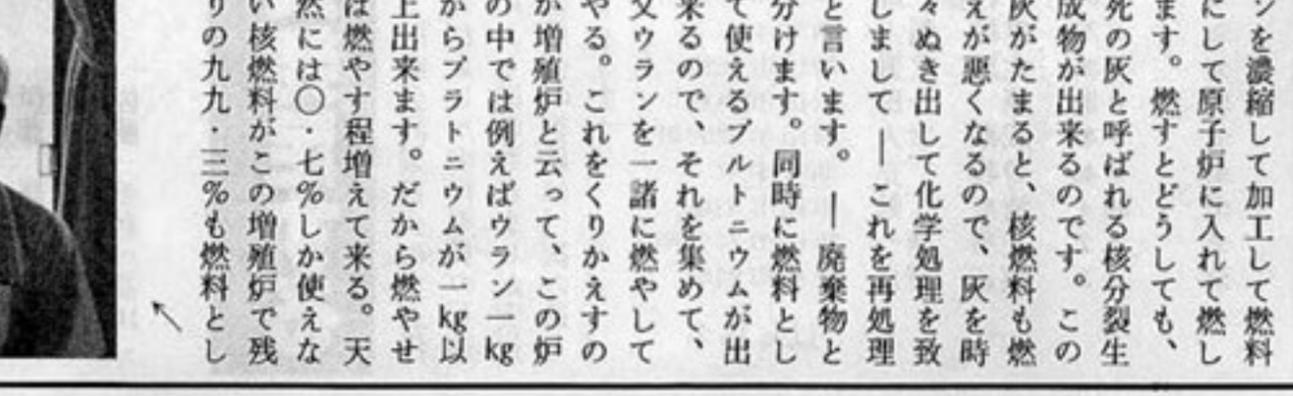
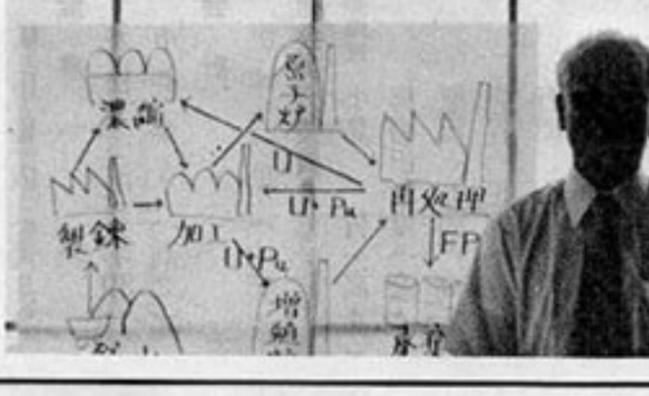
研究がなされたのであります。原子爆弾の製造。その一人にベルリン大学のオットー・ハーン教授がいて、略：一九三八年にウランに中性子を衝突させる実験をしていて、ウランの核分裂を発見し、その際発生する熱がとほうもなく大きなものであり、計算を共同研究者のマイヤー博士と共につきとめたのです。これが原子爆弾の製造のきっかけとなるわけです。当時ドイツはユダヤ人への迫害が激しく、ヨーロッパのユダヤ系の科学者は、米国の科学者、文化人、知人を頼って亡命生活をしていました。略：そしてユダヤ系科学者は、アインシュタインを立てて、大統

子爆弾を作ることを進言し、一九四二年頃から原爆製造の研究が行なわれるようになったのです。ウランは、 $^{235}\text{U}$ と $^{238}\text{U}$ の二種類で、これに中性子を当てると二通りの反応が考えられます。一つは $^{235}\text{U}$ が中性子によって核分裂をおこす反応です。このウランは自然界にあるウランの内の〇・七%しか含まれておらず、しかもこれはある量以上集めないで核反応しないので、そのことをめねばならぬわけ、その研究が色々行なわれ、例えばウランにフッ素を反応させて六フッ化ウランと云う輝発生の物質にして、飛び出す粒子の速度の違いで分けるとか、遠心力で分けるとか考えたのですが、なかなか最後は隔膜法

で何とか成功しております。これがウランの濃縮というのです。もう一つの $^{238}\text{U}$ は自然界のウランの九九・三%をしめるもので、これも中性子を当てると、ネプチウムを経てプルトニウムに変わります。このプルトニウムは $^{239}\text{Pu}$ と同じように核反応をするわけです。この二つの方法で原子爆弾を作ることに一九四五年度の七月に成功したわけですが、すでにドイツは敗戦になっていたため、日本に二つの原子爆弾が落とされたわけです。原子力の歴史としては、まことに残念なスタートでした。所でこの原子爆弾の製造技術がソ連にも知られ、それから種々の国でも、後者のプルトニウム爆弾が作られる様になったので、米

国が音頭を取って、原子力を平和の為に利用しようという運動が昭和二十八、九二年頃から起き、日本も原子力研究所を作り、昭和三十三年には原子力の平和利用が言われる様になって来たのです。原子力とエネルギー。核エネルギーを取り出せるのは、自然界にたった、 $^{235}\text{U}$ を原子炉の中で燃焼させてプルトニウムとして取り出される $^{239}\text{Pu}$ を考えれば良いわけです。ウランは鉱山から掘り出すわけですが、その量は多くはあ

りません。しかし、この辺の土地や海水にもわずかにあるのです。例えば海水一リにつき三割含まれていると言ったぐあいに広く分布はしているのですが、今の段階では、そこから取り出すことは無理ですが、その点は今研究中です。日本でウランの鉱石の採取を行なっているのが人形峠であります。とにかくウラン鉱石から精練して $^{235}\text{U}$ を取り出す、いわゆる濃縮されたウランが二つに分れる時に、出て来る中性子は非常に速度が速いので、重水をつかって毎秒二二〇〇mぐらゐの速度の中性子にしてやる。この中性子を熱中性子と呼びます。すると天然のウランはその熱中性子を取り入れて、プルトニウムとして取り出すわけです。この重水を使った原子炉がカナダのキャンドウ炉です。通産省が原子力委員会とやり合った炉です。略：イギリスで開発した炉は、重水のかわりに、純粋なグラファイト(黒鉛)を使っている炉です。こうしてウラ



講師 本島健次氏(中37卒)

てほとんど全部使えるのです。この炉に入れると燃料が一〇〇倍になるので、実際には七〇倍と計算されており、

数年前にカーター大統領になってからは、我々科学者の面から見ると、〇・七%しかなかった核燃料が増殖炉を使うことにより一〇〇倍近くの燃料にする事が出来る、人類にとって大きなエネルギーの供給であると思ふのですが、この増殖炉は<sup>235</sup>Uの濃縮法より簡単であるからこれをゆるせば、

どこの国でも簡単にブルトニウム爆弾が出来てしまう。そういう危険性を持つ増殖炉はやはりいけないと云うことで、日本でも核燃料開発事業団でもその運転まっ

た云われ、物議をかもしております。日本では、ウランの濃縮法も、増殖炉もほんの実験程度は別として全くだめになっているので、何で米国の言う事を聞かねばならないかといいたすと、全部燃料は米国からの輸入にしているわけで、その時使用について再処理

も含めて米国の意見を聞く約束をしてあるのです。日本の原子力研究も部分的な面では決して

外国におくれをとってはいないわけでは、例えば私のある分析法はフランスやドイツで使用しており、先程フランスから購入した再処理の技術の中にそれが使われているのです。略：そんなわけで日本人も自信を持つべきだと思

# 工

ます。しかし米国の輸送が、先程述べましたように米国のいいなりにならなくて

が、ドル防衛に使われても、オイルショックに使われても、かたない状態でわれわれも申しませんが、でも我々は〇・七%しかない<sup>235</sup>Uだけに頼っているのではなく、<sup>235</sup>Uも燃やせる様にするべきです。

さらにもう一つだけ、申し上げておきますと、ウランより一〇倍近く自然界に多くあるトリウムと云う元素がありますが、これをウランと一緒に原子炉に入れておきますと<sup>232</sup>Th→<sup>233</sup>Uになると云う様なこともありまして、まだまだこう言う事を研究しなくては行けないし、又、この増殖炉で電気を起こすべきであると思

っているが、カーター氏はあくまでも、人道的立場からかわかりませんが、そういう事はいっさい禁止のようになりますので、その分の頁数が増加します。

今、我々がやっている、核分裂反応による原子炉の問題は、廃棄物です。廃棄物の中に、ブルトニウムよりさらに重い元素が出来る、一〇万年〜五〇万年というとても長い半減期の放射性物質が出来ると、これはもはや消すことが出来ません。そして、この事が、原子炉をやるべきでないと言

う反対者の理由の一つなのです。しかし、今この廃棄物を安全に閉じこめておく有力な方法が見つかりそ

うです。略：。そして、我々科学者は今後のエネルギー問題に対しても、我々の子孫に対して言いがけ出来る様に出来るだけの事はしておかねばならないと思ひます。戦後テロリストに対してどうなのかと云うと、その点は科学者の直接タッチする問題ではないと思ひます。最後にまた核融合のことがお話し出来ればよかったです。時間も来ましたのでこれで失礼させていただきます。

は、基礎になる維持会費の五〇〇〇円が、あたかも名簿代金であるかの如くに考えられますが、そうではないと云うことでもあります。前十七号においても、申し上げました通り、維持会費は本会の維持運営のための会費でありまして、五ヶ年分の五〇〇〇円(一ヶ年分一〇〇〇円)はその経費であります。

## 昭和55年度

# 会員名簿発行配布

同窓会会員名簿は昭和五十五年十月発行、配布の予定をもちまして、あらゆる準備を進めていますが、その計画は次の通りでありまして、会員一人一人の御協力を切にお願い致します。

(1) 昭和五十年度に発行しました前回の名簿を基本にしまして、移動の連絡(なるべく郵送)のありました方々を訂正しまして、連絡のない方々はそのままとします。従って全員の方々に原票を書いていただくかない。

(2) 既に相当数の方々から移動の連絡がありまして、訂正が出来ております。尚、現在でも連絡がありまして、訂正を続けています。

(3) 昭和五十年度以降に移動がありまして、未だ連絡をしていない方々は、至急連絡をして下さい。

(4) 今後、連絡、訂正が続く訳であります。縮切りは昭和五十五年四月一日現在の職業・勤務先・現住所の職業・勤務先・現住所のものまでとします。

(5) 三年〜五年にて勤務先を移動される方々(特に公務員の方)は、盆休みや正月休み等長期休業に帰省される自宅のある所在地を現住所として下さい。

(6) 前回の名簿にて、出身大学学部名の誤り、脱字等訂正を要する点にお気づきの場合はご連絡をお願い致します。



# 校史編纂予定通り進捗

## 委員会だより

### 原稿の一部を印刷へ廻す

その後、校史については分担任に従って鋭意、執筆に当たってきた。

第三章(大正期)第五

既に、第二章創業期(明33(45)及び第四章充実発展期(昭2(13)の二章については、九月上旬第二次原稿の執筆が終り、企画委員会での検討の上修正。更に九月二十九日編纂代表者会(班別正副委員長の会)に於て審議を経て修正し、第三次原稿を完成の上印刷所へ廻した。予定通りの進捗である。

第一章独立前期(明15(32)も第三次原稿作成を急

校史の刊行については、飯田高校校史刊行会に於て種々検討を重ねてきたが、この程、大綱の決定をみるに至った。

### 校史の印刷は

#### 飯田共同印刷へ

#### 覚え書きの取り交し終る

校史は、A5版、八ポ、二段組み、千頁、写真約百葉を含む、本製本、ケース付きという豪華本となる。発行部数は予約募集の結果をみてきめることになっているので、奮って予約申

長宅に於て、会長と山田社長の間で、覚え書きの取り交しが終った。

し込みされるようお願いしたい。

尚、山田社長は本校四十二回の卒業生であり、母校

### 校史への期待たかまる

#### 早くも、申込みにあす

九月初旬、長野県立図書館長より校史二部の申込み

に接した。将に予約第一号である。引続き、何通もの

予約や照会を受けて、まだ予約募集の広告もしないから、幸先の良い事と、

五十二年、資料委員会が発足して足かけ四年。二百

余名の資料委員が、手分けして蒐集した膨大な資料を

六十余人の編纂委員が、逐一眼を通して、制度、創業

エピソード等八つの委員会それぞれまとめ第一

原稿に仕上げた。

これ等をもとに、第一章から第七章まで時代を追っ

て骨組みを作り、節・項と構想を吟味しつつ執筆にか

かかって一年。

此の間、多数会員の方達の御尽瘁と御協力を頂き、

長い年月と、会からの多大の出費を得た。完成を目前

### 執筆陣へ、新勢力加わる

編纂主任として、昨年七月以降、明治・大正期を担当して執筆に精進して来られた奥村主任が新設の鼎町

専任図書館長に懇請された。十月一日から就任してほ

しいとの事であった。事は急であり、明治は完成して

印刷へ廻した後はと言え、大正期については構想は立

ったが、これから第二次原稿の執筆に取りかかるとい

う矢先であった。

企画委員会で種々検討した結果、幸い、あちらは非常勤で週に二回くらいは都

合がつくというので、急速補強して、協力して執筆に

### 良い事は続くもの...

明治から大正にかけての校友会雑誌に欠番が多くて難渋していたところ、はからずも十号から十九号まで

十冊に及んで拝借することができ、編纂が大いにはか

どった願末は前号でお知らせした。

ところが、良い事は続くもので、今回、またまた、

昭和の欠番36号・38号・40号と三冊が入りできて、こ

れで昭和二年から十八年まで全部整った。

31回卒の学面会が、会誌を出すから、欠番会報のこ

とを書いたらどうかと杉山幹事にすすめられ、何回か

会報でもお願いしたが出な

月二十四日(忘れもしない)鼎の村沢甲司君から電話で「学面にのっていた会報があるぞ」という。「どこに?」「うん、どうもありません」と思ってた蔵を探したら三冊ともあったのよ」という。早速、駆けつけた。

校友会誌所載の卒業生の進路は、その年の現役、浪人ともに載っているの、浪格好なのだが、何にしても三年分の穴があっては、表

は一度に吹っ飛ばし、校内改革の真のただ中の校友会誌はその動きを如実に示してくる。これで、編纂も一段と活気づいたのであ

た。村沢・杉山両君に改めてお礼を申し上げる。

残るは、大正時代の24号(大正七)・26号(大正九)27号(大正十)で、ぜひ欲しいのだが、協力をお願いしたい。

### 掲載人物の検討を

#### 特別委員会

学校周辺班でかねてから宮沢班長が著名な卒業生の業績、経歴等資料を集めてきた。膨大な資料は、全部資料室に整理保管する。

ところで、これ等の中から

校史に登場する方達を検討するため、各班長、企画委員合同の特別委員会を構成し、検討を始めた。各方面の意見も斟酌し慎重に検討を重ねている。

### ご購入(予約募集)に

ご協力ください。

# 教育者特集

## 教室と俺

市瀬岩夫(中23)



町に居る教え子 N君に電話で、下(しも)の文句が「はでな嘆阿は馬鹿野郎」と俺をうたった唄の上の文句を覚えて居るか尋ねたら知らんと云う。もう少し古い連中かなと困って居ると横から内助の功が教えてくれた「英語数学物理をこなしバイオリニストのウラナリ先生」戦争末期に徴用逃れに学校に迷い込んだ俺

は校長に「数学も手薄になるから待機せよ」と云われたが、終戦後物理の外にやったのは社会を二年だけ。ドイツ語は高校の其他教科扱で約十五年やった。ドイツ語の時間に「馬鹿野郎」と云った記憶はない。当時校内で馬鹿野郎は流行していて外部の教育家連に反響した。天皇と称号をつけられた中学校長が自校出身の高校生が母校批判をした。中学校長S君が同級会

の際馬鹿野郎を評して「教育の墮落だ」と他の君に云うのが聞えた。又別の同級会で元校長N君が俺の為を思う友情から「君の評判は誠に悪い。どの生徒に聞いても「おっかない」と云う。老後に残るものは孤独だけだぞ」と説教した。俺は教育論には全く門外漢だ。銀行屋くずれで外車販売屋の成れの果。前歴は頭ばかり下げる嫌な仕事だった。学校は中年に差しかけた頃から始めて喜の字を目の前にしてまだ縁が切れない。余程縁が深かったらしい。俺が引かれたのは教室だ。教育の大理想なんかじゃない。教育の方法も術も知るもんか。理屈抜きで教室が好きなんだ。馬鹿野郎授業の功罪は色々だった。一担当新入学年最初のPTAで、偉い気になって、父兄に何か御要望はと尋ねたら或母親が「うちの子は授業が怖くて夜寝て居てうなされるんです」と云う。「先生は誰でしよう」と質したら俺を指さして「……」三飯田病院精神科から手紙が来て「先生の授業中席順に当てられるのを待つ間が耐えられなくてそれが原因で入院したのです。まだ受験はあきらめて居ないので相談にのって下さい」冗談じゃない。三市内の床屋の息子で成績

は悪くないが折々授業をサボるので担任のM先生に連絡したところ「あいつは先生に甘えているんです。先生にうんと叱られたいのだと告白しています」変わったのが居るものだ。四ホームルームの懇談に来た一年生の母親が「先生の一喝を聞くと胸がスーッとすく。一日一度は聞きたいと云って一生懸命読んでいます」注文に応じる代物ではない。愚にもつかぬことを並べてもきりが無い。此の変り種の万年平教師を好いてくれる「たで食う虫」も居るので俺の馬鹿野郎病は直らない。M同窓会長がある席で「浪人教室は死ぬまでや

# 南アルプスを遠望 弁当を食ったロマン野郎たち

飯田高 昭和30年卒業組



風景は青春を育み、さらには多くの場合、人生の美学や方向さえ決定づける。その点に於いては日本唯一の大秘境南アルプスを望む伊那谷

飯田生まれの人間ほど典型例はないではなからうか。早い話が南信きってこの名門校の連中たち、昼休みは毎日、「学校の土手に並ぶと、風越山をはるか赤石山脈を眺めながら、弁当を立ちくいた」と、これは当時の秀才でいまや日本の建築家のホー

尚志社、それは飯田中学校独立の年明治三十三年より昭和四十年に至る間、大宮神社に設立された学生自治寮である。この間約七十年、長幼序ある窓の下で上級生の統制と和の中に修養に勉学に相互に切磋琢磨しあい、巣立った内外舎生およそ五百余名。幾多の人

## 尚志社同窓会の記

生鏡走はさておくとして、ロマンチストぞろいだ。(以下略) 敬称略 (5月24日) 週刊現代第21号 同期のサクラより

教諭)塚田公夫氏(三十九回三種小教諭)と私と三人で塚田氏宅で相談、初めての試みとして三十八回、四十三回までを対象として各回の地域在住者一名に幹事を委嘱して、八月四日往時の生活の場に最も近い大宮温泉を会場とすることに決定した。

当日は各地より参集する者約二十名、卒業以来約四十年初めての対面もかなりあり、それぞれ話に花が咲いた。二時半開会、渋谷氏の開会の辞、私の経過説明来賓としてはかつての例会に毎月参加された田口良三氏(十八回)、飯田高校同窓会長松下逸雄(三十七回)の祝辞等の後、社友の自己紹介、此の日に招待をしたけれども健康上の理由で参加されなかった大先輩九十九翁芝原彦十先生へのお見舞等その他次回の幹事長として久保田満氏(三十七回)の決定等、大宮神社で記念撮影の後宴席に移る。芹沢喬氏(三十九回)によって尚志社主旨「思ふに浦賀の一砲は蘭國の迷夢を破りて……」の朗読があつて当時の例会を剪断とさせるものがあつた。久保田氏の乾盃を機に入会した。それぞれの集団が出来て昔話に現状にと話題は尽きず、自然と尚志社々歌、咬葉歌の大合唱がなされて宴を終了



# 在京飯田高校同窓会の開催



去る九月十三日午後七時から、東京・市ヶ谷駅前の私学会館七階ホールに於て開催された。開会前一時間雑談の時間が設けられ、逐次集まる人々の間では、胸に貼られた氏名と顔とを見合せて懐旧談の花盛り。

出席者一三三人、旧中、新高約半々。事務局長の司会により、まず一同起立して「赤石山はぎぎとして……」と校歌斉唱。「千余の学徒怠らず」のくだりに至るや、「数百の健児」「四百の健児」「千余の学徒」の混声(?)。「遊惰の世より抜け出でて」となるや、急に音量減、再び大音声で「ああ白雲の谷深く……美をなさん」と唱いあげるや拍子堂を揺り動かす。

北原会長の挨拶に「同窓会には特別の催しや芸はなくても、かつて同じ学校で机を並べた者が、そしてその後輩や先輩が一同に会するというところに意義があるのではないだろうか云々」とあり。次いで、静岡県浜岡町から駆けつけてくださった恩師寺田栄先生は「二十代の終りから約五年間、物理の教師として飯田中学校に赴任したが、まことに浅学非才の身に、顧みること汗顔の至り……。四十年の歳月、野底山の植林はど

うなったことでしょうか……と感無量の態。(註・先生は教職を離れて十年、今は町内会長、老人クラブ会長、神社氏子総代、寺院増徒総代その他町の種々の委員会に引出されて、ご活躍中とのこと。)

現校長の牛山先生から、学校現況の報告があり、現在一八名の生徒が学業として、人間陶冶の道に精進している実情が話された。なお、その際、学校・生徒が同窓会から物心両面に亘って多大の援助を受けていることに對する感謝の意が表明され、併せて母校卒業生の就職に當っての先輩諸兄の協力への依頼があつて挨拶が終つた。

次いで、同窓会本部の長坂副会長から、同窓会の近況報告として、八月の定期総会の状況、九月一日の評議員会に於て母校八十周年記念事業実行委員会が発足したこと並びに校史の編纂についての現況、来年度は会員名簿を発行する等の挨拶以上で来賓の祝辞を終つて議事に入り、北原会長が議長となつて役員改選が

## 同窓会

- 行われ、次のように決定、新任役員からそれぞれ挨拶があつた。
- 会長 北原 男(中14) 留任
  - 副会長 吉澤武雄(中21) 留任
  - 大澤 實(中24) 留任
  - 新任(前幹事長) 同
  - 新任(前事務局長) 同
  - 幹事長 原 正一(中30) 留任
  - 新任(前事務局長) 同
  - 事務局長 小椋貞夫(高5) 新任

では、同窓会の開催がむずかしくもあるから、東京と一緒にしてくれとの意向をも考え合せて、関東の一部六県と福島、山梨、静岡の三県に亘つて案内を差し上げた次第。今後も名称にこだわらず、出席せられたいとの説明があり、「それなら関西支部のように名称を変えたらどうか」との意見もあつた。

ここで、恩師平田芳亮先生(註・耳が全然聞えぬがお達者とのこと。数学・昭和八ノ十一年)および目下長野県第三区において逐鹿中の中島衛衆議院議員(高6)は飯田局から、また応援のため郷里に出張中の熊谷弘衆議院議員(高11)は静岡局から、それぞれ祝電が寄せられ、これが披露。

次に、出席者中の最年長者原守國先輩(中13)の乾杯の音頭によつて懇親パーティーに入るや、応援歌、勝利の曲などなど。老も若きも腕白中・高校生に返つての大合唱。「フレリー、フレリー、イイコー」と感激はいやが上にも盛り上る。この間、いくつもの人の山、村や鳥ができて、わいわいがやがや。

緊急動議と叫ぶ者あり。「東京における同窓会は二

## 支部だより

年後とか数年後とかでない年開催せられたし」と、一方「事務局は大変だぞ」と囁く者もあつたが、満場拍手を以て毎年開催と決定した。

突如、高校組がマイクを握り「正調飯田高校校歌」と叫んだので旧中の老年組は戸惑ふことしきり。正調は戸惑ふことしきり。正調とやらは合唱は変哲もなく、赤石山は……に始まつて順調に唄い進むかのようであつたが、「数百の健児」「千余の学徒」(男女共学になつたんだ)となり。「遊惰の世より」の一節を飛び越えて「ああ白雲の谷深く……精華を揚げん美をなさん」と結んだ。

かつての三番を省いたのが正調節かなと早合点した向きもあつたであろうがよく耳を澄ました者にはどこか調子の変わったところがあつたのに気がついたであろう。考えてみると、昔は譜面によつて正規に習つたものではなし。(譜面があつてもおたまじゃくしは大方読めまいが)で上級生から聞覚えの聞伝えであつたから老年組は狂つた節で唄つておつたことになる。

ちなみに、本会の創立總會(昭和二十八年・虎ノ門共済会館)には、校歌の作曲者・恩師故井出茂太先生(明治三六ノ三九年、當時は上野の音大の同窓会専務

理事)が増上にお立ちになつて、自らタクトを振られ「よくできた」と、おほめの言葉を頂いたが、先生どうやら、お点をおまけしてくださつたらしい。

信濃の国を一番から六番まで唄い終つたところで、「ご感想を一言」と、牛山校長先生にマイクが向けられ、先生は「異郷にあつて母校を慕う皆さん方の御氣持、その旺盛な気概には全く心を打たれました。この感激を学校に持つて帰り、生徒に伝えるとともに、皆さんの母校である飯田高校の名声をいよいよ発揚すべく、明日からの教育に立ち向う覚悟であります」と述べられた。

かく盛會裡のうちに予定の八時三十分となつて閉会したが、あとは三々五々、どこへ流れて行つたやら、いずこへしけ込んだかは筆者には判らない。

ああ、そうそう、最後の恒例の万才三唱を忘れた。

## 54年度 高森支部総会

八月十八日、高森町産業会館に於て支部総会を開催。今年の中37本島健次さん、(当町下市田出身、理博、元日本原子力研究所長)を囲んで珍らしい原子の話などお聞きしながら、八十年代の大先輩から二十代の新進

まで約五十名が実に六十年の足跡を偲びながら和やかな懐かしい懇親のひとときを過しました。

ご多忙の中を松下同窓会長は臨席され、恒例により出席最古参の中14宮脇理一先輩の乾杯に始まり一番若

司会者はとうとう脳軟化か、まことにおはさずかしき次第。参考までに、一昨年の開催には、本部発行の一九七五年版会員名簿によつて三〇〇〇通の案内状を発送したところ、転居先不明で返戻されたもの約五〇〇通(多くは高校卒)、出欠の返信のあつたもの一五〇〇無回答者一〇〇〇名。今回は前回の回答者一五〇〇人だけに案内のところ不着九〇〇〇、回答のあつたもの約一〇〇〇、何の返信もないもの約四一〇〇名。

今回は名簿の整理が整わなかつたため、前記回答者一五〇〇人に案内状を発送したが、来年は事務局を充実して、全員に洩れなく発送したいものと考えておりますので、今回未回答の方へは、出欠返信ハガキの名簿原票を急いでご返願願いた。この原票は、同窓会本部へ送付して、名簿整理の重要な資料となりますので、なお、同期の名簿をお持ちの方は、194東京都町田市玉川学園七ノ十二ノ五原正一 あてご寄贈願いたい。



# 暁峯会だより

年の高22宮脇竜臣君の万才三唱で会を閉じるまで校歌、応援歌をまじえて青春時代に戻った楽しい集いでした。

(支部長 加藤 清敬)

去る八月十一日、下久堅支部(暁峯会)総会を開催した。総会に先立ち午後二時から、昨日本会の総会で記念講演をされた防衛庁防衛研究所員、宮内邦子さん

年を重ねるたびに盛會と行って行くことは嬉しいこととす。

(支部長 加藤 清敬)

飯田観光ホテルに移して、松下本會會長と宮内さんの臨席を得て總會を開催する。(出席者三十五名)本會及び母校の現況報告、支部規約、役員の確認を行い、懇親會に入る。今回も出席者が上は三石栄氏(中15)から高20まで幅広いものとなり、今回の特色は何と云っても話題の中心が宮内女史と防衛問題で終始した格好。境に入っては彼女と聞んだ三及至五人の

組が出来、彼女の理知的な美貌も手伝ってか時を忘れて話は弾みっぱなしでした。最後は校歌、応援歌、暁峯に終了した。

代田稔會長(中17)、最年少の曾我万智子さん(高30)まで約四十名。正におじいさんからお孫さんまでの感じがして歴史を痛感した次第。正午過ぎ物故者への黙禱記念撮影、挨拶と型通りに進み、名物飛鳥鍋を数人づつで囲んでこれをつまみながらの自己紹介。

関西連合の盛況は永久幹事長の名に恥じない中塚春男氏(中36)の御尽力によるところ大と感じた。又、

今回の地元担当者の小池享氏(高5)の御力添えも盛會に華をそえられた。

最後に信濃の国と校歌を大合唱。ふるさとを同じくするものの連帯感は年令、性別を超越するもので、次年度神戸での再會を約して初秋とはいえ真夏を感じる大和路をあとにした。

(同窓會副會長 高安 健之)



# 関西同窓會總會

第16回飯田高校関西支部連合の總會は、九月十五日の敬老の日、当番奈良県で行われた。

場所は、ジム・スイセイ

者が初めて通る道である。道端にカモンカが現われたりして、奥山に來たなという感じを深める。

妻籠宿を覗、寢覺の床を俯瞰してから、わざわざ木曾福島まで足を延ばして、名物の手打ちそばを賞味する。山菜料理も珍味であり自慢のデラックスな新しい

呉れるので、五時少し前に最終解散となった。

斯くして第五十四回目のクラス会を楽しく過ごしたわけだが、この年令になってもまだ第一線に雄々しく活躍している者も随分多い。身体に故障の生じた人達は、可能な限り回復される様念願してやまない。

次回は京浜地区の当番で、時も所も未定だが、連者で

いる限りは一人でも多く集まって欲しいものだ。社会的に経済的に、或は家庭的に学歴にと、たとえどんな差が生じようとも、それを一切取り払って楽しく語り合えるのがクラス会というものであるまいか。万難を排して参集されんことを切望する。

(当番 仲田 丈夫)

# 中25回卒クラス会

大正十五年に卒業した明治生れの我々クラスは、最年少の者も今年古稀を迎えて、全員が七十才台と相成った。

夫々の専門分野に於いては、聊かの衰えも見せないのだが、他の面になると身体も心も大分

は昼神温泉と決めた。

五月二十九日午後四時飯田駅に集合。マイクロボスに迎えられて恵山荘に赴く。突発の事情で直前欠席のやむなきに至った者もあり、出席は未だ嘗てない程の少数十五名だけとなってしまった。而も今度に限って同伴者出席皆無とあって、聊か色褪せた感じの集りと相

年期に立ち戻って、楽しい思い出は尽くるを知らず。校歌と勝利の曲を合唱の後三〇二号の一室に席を移し夜半に至るまで談話は続けられた。

翌三十日は、忝くも晴天に恵まれ、朝食後マイクロボスを走らせて木曾路探勝に向かう。立派に出来上がったパイパスは、大部分の

奥座敷で、ゆっくりと昼食の小宴を楽しむことが出来た。

探勝の最後は、赤沢自然林ということにしてあるのだが、列車利用の都合で木曾福島駅で別れる者もあり、探勝後上松駅で乗車の者もあった。マイクロボスは飯田駅を最終として中途の下車もくるめて、送り届けて

# 同級会だより

イカれて、だんだんヨリが戻って来た様に感ぜられる。タッタ一枚の返信ハガキでも宛名が〇〇〇〇行のまゝ、投函されたものが幾枚もあり、甚だしいものは自分の名前も住所も書き忘れたままというのもあった。

交通事故に遭わないよう充分に注意して下さいよ、

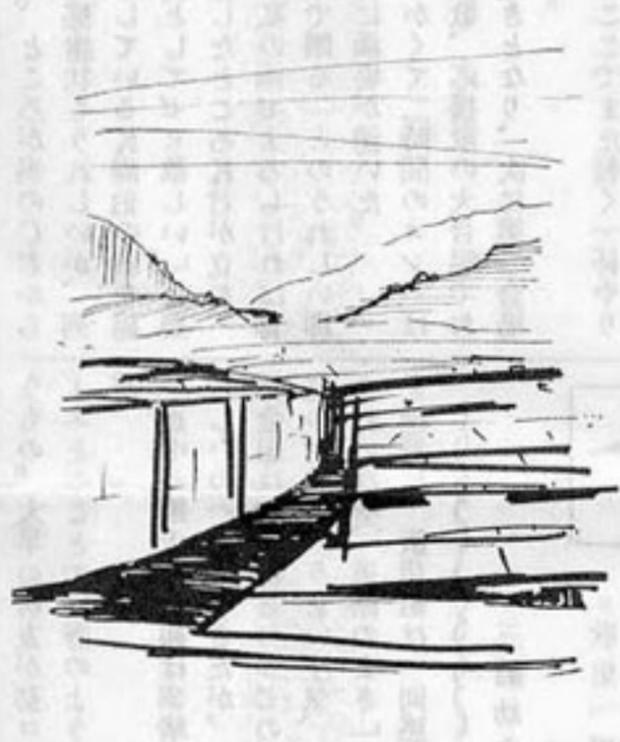
五月二十九日午後四時飯田駅に集合。マイクロボスに迎えられて恵山荘に赴く。突発の事情で直前欠席のやむなきに至った者もあり、出席は未だ嘗てない程の少数十五名だけとなってしまった。而も今度に限って同伴者出席皆無とあって、聊か色褪せた感じの集りと相

年期に立ち戻って、楽しい思い出は尽くるを知らず。校歌と勝利の曲を合唱の後三〇二号の一室に席を移し夜半に至るまで談話は続けられた。

翌三十日は、忝くも晴天に恵まれ、朝食後マイクロボスを走らせて木曾路探勝に向かう。立派に出来上がったパイパスは、大部分の

奥座敷で、ゆっくりと昼食の小宴を楽しむことが出来た。

探勝の最後は、赤沢自然林ということにしてあるのだが、列車利用の都合で木曾福島駅で別れる者もあり、探勝後上松駅で乗車の者もあった。マイクロボスは飯田駅を最終として中途の下車もくるめて、送り届けて



# 飯中39回便り

の人も多く、懐旧談に花が咲いた。遠隔地の友の消息も大分判明し、名簿整備を早急に行うことを申し合わせた。

(幹事 加藤 清敬)

八月十九日、市内常盤町千登勢で開會。

今回は全員に通知を発送。倉科英夫・三浦輝男・塚田均・増田(松沢)正介の四君を含めて二十名参加。四名には卒業以来初めて



私は同級会と名のつく三つの集りに仲間入りさせてもらっている。この中で、率直に云って一番たのしいのは中学のそれで、その理由は一泊二日の間、お互いに肩書や地位を抜きにした旧友に戻って行動を共にし、背を流し合える裸のつきあいと、昔のニックネームで呼び合うことのできる友情がよみがえってくるからだと思います。

年をとって人恋しくなってきたゆえか、お互いに仕事に暇ができたためか、このところどの同級会も出席率が大変よくなってきたように思えるが、一面、欠席者の多くが病床にあると聞いたり、物故者があったりすると毎日を大切にしなければと痛感する。

数日前にも飯田中学時代の同級会が五十周年記念大会と銘打って、交通の中心地ということから諏訪でひらかれた。

飯田駅を午前十一時に貸切バスで出発するというので十時半ころ行ってみたら、乗車予定者の全部が揃っていた。ひところ、飯田時間などと云われ会合などが定期的に始まらぬことが通例とされていた時代があったが今日の集まりのよさには驚いた。これも時間を守る観念の徹底か、それとも今日の会合に大きな期待を持ったゆえの現われであろうか。

今日の参加者は三十八名と云う。五十年前に高松の校門を出た級友は百二十名、その後四十五名は逝去、計算上では七十五名が生存しているわけだが、残念ながら所在不明者も数名いるので、あれこれ考えるとこの出席率は極めて良いと云わねばならぬ。

# 校門と別れて五十年

## 飯中第二十七回生同級会の記

横井 佳寿生

赤石へ苦勞して登山した話をしているうちに上諏訪へ着いた。

ここで東西から列車で来た十数名が加わり全員が揃った。遠来組の東は東京組が十余名、西は兵庫県の伊丹から名古屋、それに北信組が加わり、久方ぶり、いや人によっては卒業以来の対面もあって、やあやあと肩をたたき握手し賑やかな限りである。

気者のS君曰く「諸君は見渡したところ社長あり、重役あり、その他、教育長、校長、保育園長、警察署長、公民館長、電話局長、新聞界の長老、医師、工場長、有名画伯、農協の親方等々の長づくめで占め現役非現役を問わず一國一城の主として毎日自分の思うように振舞っている人達だが今日は立場が違う。中学時代に戻り当番幹事の云うことに従って秩序よく行動しよう」と提案があり、一同異議なく。

バスは快適な有料道路を走ること一時間、日本ビラタスロープウェイ駅に着き横岳頂上に向いコープウェイに乗車する。標高二五〇〇メートルに近い山での眺望は絶佳だが肌寒いくらいだ。東京の画伯K君は、この景観を逃さじとあちこちに向けシャッターを切ることにしばしば。やがて下山の指示があり再びバスで引返して宿舎たてしな山荘に着く。

山荘と云ってはも

ったいな程の施設で、木の香も新しい各室の施設は一流のホテル級で、温泉の湧出量も豊富と聞き、さっそく浴衣に着替え、大浴場へ。

午後六時「食堂へ全員集合せよ」とC幹事の声かスピーカーに乗ってくる。さあよいよ待望の五十周年記念コンバだ。

ついで開会の挨拶は万年幹事のC君、乾杯は最も遠くから参加のC君。次に最近表彰された級友の紹介が始まる。まず多年にわたる交通指導の功で知事表彰の竜江I君、税関業務に協力の功で税関長表彰の横濱K君、永年の体育教育功で文部省表彰の野田H君等に満場の拍手が湧く。

た。ところが当のC君から「感謝状もうれしいが、列席しているK画伯の画を副賞としてぜひ欲しい」と要望したところK君が立ち、「私の画でよろしければ喜んで贈る」とのうれしい即答に満場が湧いた。

かくて二時間のコンバは校歌、応援歌の大合唱で開きとなり、次に第二会場へ。

ここでまた軽く一杯やりながらミスターコンテストが始まる。まず「ミスター孫の教」ではI君が十一人でトップ「ミスター孫の進学」では大学二年生の孫を持つY君、その他「光頭」「白髪」「黒髪」「ロング」等々と順調に進んだが「ミスター所得税」にいたっては議論百出、結局世間並に医師のY君が押しつけられるなど興がつきぬうちに十二時となったので、各自室に引きあげる。

途中の雄大な景観は素晴らしいの一語につきたが、都会組は「新緑とつつじの紅の対照美、うまい空気、きれいな空、道路のよさ」を絶賛し、飯伊組は「同窓

せめて下伊那にもこのようなスケールの大きい観光地があったらなー」とつけ加えていた。

上諏訪駅では「来年もきつと逢おう、元気でな」とお互いの健康を願いながら帽子を振ったのであった。

### 紹介品贈寄



- ・三輪幼虫 奥村晃作氏 (高7)
- ・歌集「摺曲」 田中太七氏 (中44)
- ・同慶集 古川博應氏 (中31)
- ・常滑市誌 近藤總子氏 (高4) (旧姓三浦)
- ・遠山物語 後藤総一郎氏 (高4)
- ・高坂陸平教授退官記念業績集 高坂陸平氏 (中31)
- ・国文学試験論集 牛山之雄氏 (飯田高校現校長)

# 学芸班

## ◇書道

本年度初めて拓本取りを  
始め成果をあげている。  
文化祭にも良い作品を展  
示することが出来、なお一  
層練習、努力を重ねている。

◇吹奏  
高松祭での演奏  
は勿論のこと、七  
月二十二日には連合演奏会  
八月五日は定期演奏会を行  
い、OB等観客多数の大威  
功であった。  
また、八月九日には県吹  
奏楽コンクールが長野市民  
会館で行われ、日頃のきび  
しい成果を生かし金賞授賞  
の栄冠を得た。

◇天文  
毎日の太陽黒点の観測、  
夜間観測も随時行っている。  
八月十二・十三日には陣馬  
形山にキャンプを張り、ベ  
ルセウス流星群の観測をし  
大きな成果を得ることが出  
来た。その他、九月六日の  
皆既月食・木星土星・星雲  
星団・月面・変光星等の観  
測を行い、スケッチ・写真  
撮影を重ねている。

# 学園の窓

## —クラブ・同好会・活動紹介—

## ◇凧

文化祭に向けて、一、二  
人で一体の製作をめざした。  
新鮮さを求めて、基本から  
高度なものまで……。  
製作風として、アンドン・  
ハイライト・テンション（  
三角）・ダイマ風など。  
ムカデ風・大風の製作に  
あたり、竹割り・削りの練  
習に励んでいる。

## ◇演劇

高松祭にイブセンの「幽  
霊」を上演。イブセンのも  
のは一昨年「人形の家」  
について二作目である。

現在は、十一月の飯伊地  
区高校演劇発表会にむけて  
ゴールズワージーの「勝利  
者と敗北者」を稽古中。

## ◇大

た名称劇団Rhea  
を名乗っているが、昨年は  
「怒りをこめてふりかえれ」  
（オズボーン作）「メデイ」  
（アメイ作）と大作に精一  
杯取り組んでいる。もっと  
も「R」は小文字でも良い  
のではないかと謙遜する向  
きもある。

## ◇将棋

毎年良い成績をあげてい  
るが、今年も八月十三日に  
行なわれた県大会で団体準  
優勝し、なお努力し、頂上  
を窮めるべく練習に余念が  
ない。

## ◇郷土

飯田大火と三六災害を中  
心に、下伊那の災害振興史  
を調査、研究し高松祭まで  
に発表、研究誌「段丘」二  
十六号にまとめる。  
夏休みからは「下伊那の  
祭」について地域を分担し  
調査・研究している。

## ◇数学

今年度初めて、三年生が  
コンピュータの研究に取  
組んでいる。

# シモヤンソノコンサート

去る八月十日夜、飯田市  
中央公民館ホールに於て、  
飯田高校と水のいのちの会  
による第一回ジョイントコ  
ンサートが開催された。  
飯田高校合唱班OB有志  
による「水のいのちの会」  
の一年以上も前からの夢が

叶い、OB、現役共々、感  
動の涙を押えることので  
きなかった現役父兄も心か  
ら拍手を送り盛り上がり  
みせた。このコンサートが  
回を重ねますます発展する  
よう祈るものです。

## ◇鉄道研究

本年度は「旅」に焦点を  
あててみる。長野―飯田間  
の取材、特急・急行・普通  
のすべてに乗車し、駅弁に

# 運動班

## ◇剣道

県大会  
団体男子ブロック準優勝  
個人男子  
女子

## ◇野球

飯田地区大会  
個人 女子優勝

## ◇山岳

甲子園大会  
信州工8―7飯田  
秋季リーグ  
優勝（春秋連覇）  
南信大会 二回戦で敗退

## ◇山行

五月：中央アルプス縦走

## ◇柔道

南信大会 プロック2位  
南信柔道大会に出場  
飯伊大会  
飯田80―49飯工  
準決勝 飯田118―62阿南  
決勝  
長姫86―64飯田△2位▽  
南信総体

## ◇バスケット

南信大会  
飯田2―1上農  
飯田2―1上農  
飯田2―1上農

## ◇男子バレー

各文化祭で招待試合  
飯田2―1上農  
飯田2―1上農

## ◇女子バレー

各文化祭で招待試合  
飯田2―1上農  
飯田2―1上農

## ◇弓道

文化祭で活躍、その後低  
迷。新人戦に向けて練習を  
重ねている。

## ◇男子バレー

各文化祭で招待試合  
飯田2―1上農  
飯田2―1上農

## ◇女子バレー

各文化祭で招待試合  
飯田2―1上農  
飯田2―1上農

## ◇柔道

南信大会 プロック2位  
南信柔道大会に出場  
飯伊大会  
飯田80―49飯工  
準決勝 飯田118―62阿南  
決勝  
長姫86―64飯田△2位▽  
南信総体

## ◇庭球

国体県予選に出場  
新人戦県大会  
団体 準優勝  
個人 一組出場

## ◇サッカー

インターハイ県大会  
須坂4―0飯田  
全国高校南信予選  
飯田2―1阿南  
代表決定戦  
飯田2―0東海三  
△県大会に出場▽

## ◇卓球

全日本ジュニア南信予選  
男子 一位、三位  
女子 一位  
△県大会へ五名出場▽

## ◇陸上

県大会  
出場十六名 入賞五名  
（内優勝一名）  
北信越大会  
出場四名  
入賞二名（男一・女一）  
全国高校総体  
出場二名

# 会員

## 計報

御冥福を  
お祈りします

中5回	松井卓治	53	11	12
中10回	柳田静雄	54	9	11
中14回	唐沢喜一	54	6	9
中14回	小林 元	54	6	21
中14回	三浦晃吉	54	1	16
中15回	藤井 勉	54	3	2
中21回	竹村 進	54	9	3
中21回	長谷部勝	54	6	6
中24回	北原市郎	54	5	18
中24回	遠山四男	54	1	16
中24回	和地武雄	54	6	19
中25回	野原 清	54	8	9
中28回	林 美男	54	7	25
中29回	後藤 達	54	6	9
中29回	畑中仲次	54	8	9
中30回	木下 正	54	8	17
中30回	滝沢正一	54	6	13
中30回	宮沢基治	54	2	15
中31回	蜂谷善雄	53	10	16
中33回	松井 護	54	6	22
中33回	渡 三樹	54	1	25
中38回	岩本清志	50	12	30
中38回	細井 正	54	7	22
中38回	矢高譲児	54	9	29
中39回	小原洪祐	52	11	
中40回	小島莊助	不明		
中40回	後藤元平	52	11	
中40回	佐々木秀男	不明		
中46回	小池 力	54	8	16
高10回	坂井隆文	53	11	23
高11回	大蔵陸宣	51	3	8
高30回	勝岡 通	54	4	1

昭和53年度一般会計決算書

収入決算額	10,433,969円
支出決算額	5,588,989円
差引残額	4,844,980円
＜収入内訳＞	
繰越金	1,496,484円
入会金	558,000円
維持会費	7,759,580円
雑収入	619,905円
合計	10,433,969円
＜支出内訳＞	
(総務費)	(2,184,383)
事務員人件費	1,310,200
事務費	64,662
慶弔費	54,830
会議費	362,813
総務費	173,050
諸役員会費	189,763
通信費	21,000
印刷費	141,300
旅交通費	49,880
振替手数料	135,820
雑費	44,378
(事業費)	(1,604,606)
人教室費	63,886
補助費	85,000
会報発行費	1,455,720
(特別会計繰入)	(1,800,000)
(予備費)	
合計	5,588,989

昭和54年度一般会計予算書

収入予算額	7,904,480円
支出予算額	7,904,480円
差引残額	0円
＜収入内訳＞	
繰越金	844,980円
入会金	559,500円
維持会費	6,000,000円
雑収入	500,000円
合計	7,904,480円
＜支出内訳＞	
(総務費)	(2,370,000)
事務局人件費	1,380,000
事務費	70,000
慶弔費	90,000
会議費	360,000
総務費	160,000
諸役員会費	200,000
通信費	50,000
印刷費	150,000
旅交通費	100,000
振替手数料	120,000
雑費	50,000
(事業費)	(1,750,000)
人教室費	100,000
補助費	150,000
会報発行費	1,500,000
(特別会計繰入)	(2,150,000)
(クラブ活動助成)	(250,000)
(予備費)	
合計	7,904,480

昭和53年度特別会計  
(編纂委員会)決算書

収入決算額	1,959,295円
支出決算額	1,938,949円
差引残額	20,346円
＜収入内訳＞	
繰越金	144,181円
一般会計繰入金	1,800,000円
雑収入	15,114円
合計	1,959,295円
＜支出内訳＞	
総務費	1,252,815
業務費	381,544
事務費	126,750
旅交通費	49,350
通信費	90,100
雑費	38,380
備費	0
合計	1,938,949

昭和54年度特別会計  
(編纂委員会)予算書

収入予算額	2,930,346円
支出予算額	2,930,346円
差引残額	0円
＜収入内訳＞	
繰越金	20,346円
一般会計繰入金	2,150,000円
校史売上金	750,000円
雑収入	10,000円
合計	2,930,346円
＜支出内訳＞	
総務費	2,270,000
業務費	282,800
事務費	55,000
旅交通費	60,000
通信費	50,000
雑費	100,000
備費	112,546
合計	2,930,346

事務局

だより

(一)維持会費について  
 (1)維持会費の納入が、大変におくれています。承知して納入下さらない方もおられるかも知れませんが、大部分の方々は忘れておられる事と存じます。未だ納入されていない方々はお手もとの振替用紙にて、至急納入下されるよう改めてお願い致します。尚振替用紙を紛失された方々には御連絡下されば、お送り致します。

(2)既に納入下さいました  
 (3)松下新会長の御挨拶にありますが、明年行われる母校八十周年記念行事の経費は、維持会費を充当して寄附金を募集しないということであり、従ってこの経費を産み出すためにも、今まで未納になっておられる方々には、この際、是非納入して下さいさなければなりませんので、くれぐれもよろしくお願い致します。尚、卒業以来全く納入されていない方々及び、五十年以降五〇〇〇円の未納の方々に改めて、松下会長より直接にお願いがあるものと思えます。

(二)同窓会支部について  
 創立された年月については夫々記録が見当りませんが、現在全国に次の通り支部が結成されています。  
 (1)郡内 松川・高森・橋北  
 飯田市役所・鼎・伊賀良

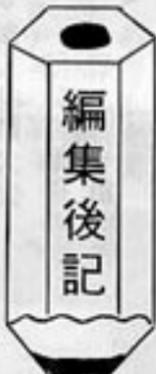
竜丘・川路・下条・遠山  
 下久堅・喬木・豊丘・大鹿  
 (2)郡外 長野・松本 伊那市・駒ヶ根・上伊那南部  
 (一)駒ヶ根が途中から拡大  
 (3)県外 北海道・関東(主に東京)・横浜・静岡・中京(主に名古屋)・関西連合(京都・大阪・奈良・兵庫)

これらの支部は夫々支部規約をつくり支部長以下の役員を選任して毎年盛大な総会(飯田市役所・北海道は年二回)等を開催しまして活発な活動を続けています。北海道を除く各支部の総会には、本会役員が交替にて出席致しまして、御祝儀(支部助成金)をお渡しすると共に、本会や母校の様子をお知らせ致しています。総会の様子につきましては、ご紹介致しますから、お気づきの事と存じます。ここで支部のない地域の会員の皆さんにお願いいたしたいと存じます。郡内は勿論であります、郡県外にも相当多くの同窓生が同じ地域にて、ご活躍いたしているのに、支部が結成されていないと云うことは、まことに残念であります。どうか、これらの地域にも是非、支部を結成していただきたく、と云うことであります。

存じますが、資料委員会が発足しました昭和五十一年度より、昭和五十三年度までの三ヶ年間に、三七〇万円を一般会計より、校史編纂のために支出致してまいりました。愈々明年六月には刊行になりますので、昭和五十一年度の一般会計より支出する予算額は、二一五万円と大巾にアップされました。この源資は、御承知の通り会員の皆様方より納入していただく維持会費より外にないのであります。毎回の恐縮ではありますが、維持会費を未納される方が多くなり、この源資が、おぼつかなくなり、申上げます。よろしくお願い申し上げます。

いよいよ菊花薫る、読書散策共に好適の時季となりました。その後同窓生の皆様には、御健勝にて御精励のことと存じます。いろいろの事情で、おくりおりました、同窓会報十八号がやっと出来上りました。御覧頂き度いと思致します。遠く故郷を離れて御活躍の皆々様に、この会報が、母校への重要なパイプの役を

果してくれば大変うれしく存じます。八十周年も来年に迫り、会員名簿の発行、校史編纂等の仕事も多忙を極めております。職員生徒共に先輩の後をついで、本校の伝統を益々発展すべく日々努力致して居ります。校舎の窓の改修もあと正面を残すのみとなり、来年八十周年の記念式典を行う頃迄には、全部きれいになる予定でございます。又御帰郷の折には是非母校にお立ち寄り下さいますようお願い申し上げます。



既に千葉と、とに在住